

2022年度 第1回CSR委員会 議事録

日 時 2022年4月14日(木) 13:30~17:00
 会 場 Web会議
 出席者 19名(欠席:伊藤委員)

(敬称略)

ブロック	委員名	ブロック	委員名	ブロック	委員名
東京	廣瀬 城児	南関東	丹沢 悟	東中国	○ 山田 眞理
北海道	池田 壮	東京	○ 三浦 起世光	西中国	青木 道男
北東北	小笠原 裕司	東海	伊藤 準	四国	平岡 佳展
南東北	沓澤 六雄	北陸	宮下 正	九州北	三浦 文義
上信越	桐島 航平	近畿	松田 時典	九州南	植村 敬子
東関東	岩崎 栄	阪神	西川 秀俊		

<担当副会長>横山 健一郎
 <事務局>特命部長:金澤 亨、特命部長:大谷 隆(記)
 :委員長、○:副委員長

<委員会での決定事項>

- ・ぼうさい探検隊の積極的な取り組み
- ・防災・減災の取組みを浸透させるためのセミナー開催を検討

議 事

・挨拶

1. 廣瀬委員長挨拶

- ・本日も年度始めの忙しい中、委員会に出席いただき感謝申し上げます。全国のコロナ感染症の状況を踏まえ誠にでは残念ではあるが今回はハイブリッドで開催することとしたので理解いただきたい。
- ・2022年度1回目の委員会ではあるが、このメンバーでの委員会は最後となるので、次の方にバトンを渡される方は、しっかり引き継ぎを行って頂きたいし、次期も継続して委員になられる方は、是非委員会のけん引役となっていただきたいと思っている。
- ・CSRは継続的に活動することが大切であり、2022年度事業計画でのCSR委員会への諮問事項について後ほど報告するので、次につながる議論をしていただきたい。
- ・ぼうさい探検隊については、前回の委員会が出た意見・要望等を損保協会に提言しており、本日、損保協会の担当者が会議に参加するので、聞きたいことがあれば質問していただきたい。今年に入っても、小学生の通学中の事故のニュースを目にするので、改めてぼうさい探検隊の主旨を伝えていただき本年度も引き続き各方面への声掛けをお願いしたい。また、地域での独自活動については引き続き現状に合った活動を推進していただきたい。
- ・本日も皆さんの活発な論議をお願いします。

2. 司会進行・議事録作成者の指名

- ・司会進行に三浦副委員長、議事録作成者に事務局が指名された。

・報告事項・情報共有

1. 第8回 理事会報告

事務局より、配布した第 8 回理事会議事録の内容に沿って説明が行われ、以下の補足をした。

- ・今回、審議事項なし。
- ・「代協正会員実態調査」の報告のうち CSR 関連について、定期的な防災訓練の実施が 17.3%、BCP 策定 38.5%とまだまだ、徹底が出来ていない。また、ぼうさい探検隊 28.8%、無保険車追放キャンペーン 38.1%、地震保険キャンペーン 55.4%と認知度が低いことが分かった。
- ・「会員懇談会質疑回答」について説明があった。
- ・事業計画進捗状況について、地区担当理事・各委員会委員長より報告があった。

2. 臨時総会報告

事務局より、配布した臨時総会議事録の内容に沿って説明が行われ、以下の補足をした。

- ・日本代協 2022 年度(第 59 期)事業計画案が承認された。
- ・日本代協 2022 年度(59 期)正会員会費額案が承認された。
- ・日本代協 2022 年度(59 期)収支予算案が承認された。

3. 2022 年度事業計画、委員会諮問事項報告

事務局より、臨時総会で承認された 2022 年度事業計画およびについて説明が行われ、以下の補足をした。

CSR 委員会諮問・推進事項は以下の 3 点

- ・防災・減災の具体的取組みの検討・推進(ハザードマップ、マイタイムライン、定期的な防災訓練の情宣・普及等)
- ・継続活動の情宣効果向上に向けた検討(地震保険、子ども 110 番、無保険車)
- ・「ぼうさい探検隊」の積極推進
(廣瀬委員長より補足)
- ・出前授業は、小中高大学生を対象とした授業、代協が共催した交通安全勉強会も含まれることになった。
- ・会長懇談会では、逃げキッドの資料で小学生向けのマイタイムライン説明とぼうさい探検隊の取組みを依頼した。

4. 2021 年度第 2 回「活力研」報告

事務局より、3/2 に開催された「活力研」について報告が行われ、以下の補足をした。

- ・今回は、前回の活力研で提示した「保険会社と代理店間のコミュニケーションギャップ・課題への対応」を再整理し資料として事前に配布した。その中で「合併・統合」「乗合承認申請・手続き」「代手ポイント制度全般」「保険会社と代理店の費用負担」の 4 つのテーマで論議した。日本代協 HP 会員専用書庫に公開済みの議事録と資料を掲示してある。

5. 前回委員会振り返り

廣瀬委員長より、配布した第 4 回 CSR 委員会議事録の内容に沿って振り返りが行われた。

・審議事項

1. 各ブロック独自活動状況

事前に提出された活動チェックシートに基き各ブロックより前回委員会以降の独自活動の報告があった。

(北海道)

- ・タオルボランティアは全 9 支部が実施済(予定含み)。
- ・防災マップ作成の資金として 10 万円寄付し、その際ぼうさい探検隊をアピール。詳細は北海道代協 HP に掲載しているので見て頂きたい。

(北東北)

- ・青森、秋田は活動なし。
- ・岩手で3/16に社協へ寄附金と使用済切手を贈呈。

(南東北)

- ・大きな活動はないが、第19回ぼうさい探検隊の案内を地元紙に掲載。

(上信越)

- ・長野、群馬では各支部で献血活動実施。
- ・3月に佐藤交通遺児福祉基金への贈呈式実施。

(東関東)

- ・千葉で3/8防災・減災セミナーをハイブリッドで開催、献血活動実施。
- ・埼玉で昨年度集めた寄附金を交通遺児基金に寄付予定。

(南関東)

- ・神奈川は各支部で献血活動実施。
- ・山梨も2月まで献血を実施し約100名の協力をいただいた。出前講座5回開催に向けて学校を選定中。

(東京)

- ・防災動画を3本作成しYouTubeで公開しているので視聴いただきたい。
- ・第2回サイバーセミナーを開催(事故対応について)。
- ・2/5献血運動実施。

(北陸)

- ・前回委員会以降、富山では3校、石川では2校の出前講座を開催。
- ・石川で2/10CSR活動寄附金贈呈(これまでの森林公園植樹に代えて)。
- ・福井で2/16ぼうさい探検隊参加賞贈呈式を開催。
- ・ブロック共同でハザードマップ勉強会、地震保険普及セミナーを開催。

(近畿)

- ・事業としては中止が続いている。
- ・京都では、京都府、京都市と包括提携を協定しており今後自然災害時の対応で連携していく。

(阪神)

- ・2/19ブロックで公開講座『「N-NOSE」を知る』を開催。
- ・大阪では第19回マップコンクールの案内を2回出状。
- ・BCP策定につき会員にヒアリングを行ったが、実態を聞いて唖然とした。

(東中国)

- ・岡山では、2月の献血月間に26名が献血、3/7車いす贈呈、ぼうさい探検隊募集案内を地元紙に掲載。
- ・鳥取は、未来見守りネットワークに寄附金贈呈。

(西中国)

- ・広島は、3月に企画環境委員会と連携し「事業継続力強化計画」作成勉強会を3回開催。
- ・山口では、献血キャンペーン実施。

(四国)

- ・香川代協では、無保険車追放街頭キャンペーンが活動できないので国交省と連携し代替案を検討中。
- ・徳島県警と連携して毎年 4 月に行っていた交通安全キャンペーンは秋に延期としたが、交通安全動画の作成を検討。

(九州北)

- ・大分で、ハザードマップセミナーを 1/26 開催し B C P を作成している会員に災害時の体験談を披露してもらった。3 月にぼうさい探検隊表彰式を開催。
- ・長崎では、損保協会と連携し地震セミナーを開催。

(九州南)

- ・宮崎で、3/31 県 P T A 連合会と「子ども 110 番の代理店」登録を調印。
- ・熊本では昨年 12 月～3 月に活動した交通遺児募金を 3/31 贈呈。ぼうさい探検隊の表彰式をメディア 3 社が取材。
- ・鹿児島では、「子ども 110 番の家」登録会員を対象に(39 会員)アンケートを行い、防犯教室の実施や登下校時の見守りの実施等の活動を行っているとの回答があった。

2. ぼうさい探検隊の総括と今年度の進め方

廣瀬委員長が第 18 回マップコンクールの総括を行った。

- ・昨年度、最終的には 184 団体 282 マップ(昨年度は 138 団体 243 マップ)を提出し、コンクール全体の約 5 割が代協経由での参加となり、改めて感謝申し上げる。
- ・都道府県代協の会員が申込みを働きかけた作品のうち、キッズリスクアドバイザー賞(日本代協賞)に「ひとよし防災ワクワク組(熊本県代協)」、デジタルマップ特別賞に「いまいずみ児童クラブ(静岡県代協)」と「THE OBATA(愛知県代協)」、佳作に 10 作品が選ばれた。
- ・各都道府県代協では、コンクールに参加した子供の父兄にアンケートを実施したり、独自に表彰式を開催し参加賞や賞状を送る取組みをして次回以降の参加を進める取組みを行ってきた。

日本損害保険協会 業務グループ 啓発・教育グループ 水谷氏より昨年度 C S R 委員会から提出した意見・要望についての回答があった。

- ・ぼうさい探検隊の事業に関して、多くの作品を日本代協経由で申込み頂いたと認識しており、改めて感謝いたします。この 2 年コロナ禍で外出が制限されてしまい、応募の件数としては下がってしまっているが、2020 年度と比較して多くの参加をいただいている。
- ・3 月に全国の小学校約 2 万校にあてて、ぼうさい探検隊実施の依頼を直接応募要項とともにダイレクトメール送信した。また、後援団体である消防庁の機関紙「炎」に応募要項を掲載させていただいている等応募勧奨を行っている。
- ・昨年度頂いた意見・質問について回答させていただく。
- ・「表彰対象の数が少ない」という意見について、コロナ禍でピーク時から減少している状況を踏まえ、入賞 22 作品、佳作 50 作品(応募全体の約 7%)を表彰対象とした運営としていきたいと考えているが、今後の応募状況をみながら検討していく。
- ・「タブレットの使用方法が分かりづらい」という意見については、2020 年度に日本代協からいただいた要望に応え、タブレット操作方法についての動画を作っているので活用していただきたい。また、マップコンクール事務局に問い合わせいただければ直接対応できるので併せて活用願いたい。
- ・「タブレットで作成したデータ送信を上手く送信できない」という意見については、送信いただくデータに個人情報が入っているケースが多くセキュリティを厳しくせざるを得ないので、有線のコードを使用しないと送信できない仕組みとなっていることを理解頂きたい。
- ・「子供だけでもタブレット操作できるようにしてほしい」という意見については、マップ作成にあたっては子ども

もだけで町歩きをすることは危険であるとの考えから保護者にも同伴していただくというコンセプトとなっている。操作でわからないことがあれば、同伴の大人がアドバイスしていただければと思う。

- ・「アプリの活用はできないのか」という意見については、セキュリティの関係で現状では対応不可能であること理解いただきたい。
- ・「学校行事の予定を立てる 2 月中旬には案内を出せるようにしたい」との意見については、学校行事と言われるものは授業ではない運動会や遠足の行事を指していて、ぼうさい探検隊の活動は授業内で実施されるカリキュラムなので、次年度の体制が整う人事異動後の年間授業計画を立てる際(通常春休み)に組み込んでいる、と先生方からは聞いている。したがって、3月中旬～後半に案内している。

(委員からの意見・質問)

- ・損保協会の HP に掲載されているツール類を CD-ROM にまとめて実施マニュアルを送付する際に付けていただきたい。

(損保協会より)実施要項等は毎年少しずつ変わっているので、都度 CD ROMを作成するのは困難である。現状はHPからダウンロードしていただきたい。

- ・ブロック協議会等で説明しても言葉だけではなかなか全会員に伝わっていなかった。やはりチラシを数多く配って興味を引くようにしなければならないので、今年度から必要部数を配布頂いたことはありがたい。
- ・新 1 年生が入学前に通学路を親と歩く機会が多いと思うので、この時に作ったマップも対象としていただければありがたい。

(損保協会より)ぼうさい探検隊はグループ活動によって教育効果を高めることを目的としているので、小学生 2 名以上で作成したものに限定している。ただ、一人で作成したマップを応募いただければ審査の対象にはならないが、参加賞の贈呈はしているので、このような場合でも応募頂けたらと思っている。

3. 防災・減災の具体的な取り組み(マイタイムライン・定期的な避難訓練実施)

(三浦副委員長より)

- ・東京代協で昨年開催した国土交通省 関東地方整備局のセミナーを全国 8 地区の整備局でも講師を受けてくれるとのことなので、検討中であれば連絡をいただきたい。
- ・資料にも添付されているが、国交省のHPに乗っている「逃げキッド」のツールは非常にわかりやすくなっているのですまずは作成してみたい。

(主な意見)

- ・東中国ブロックと西中国ブロック共同でセミナー開催を検討しているのでお願いしたい。
- ・BCP策定の確認をする際に簡単なアンケートを作ってみたが、実態調査のアンケート結果と同様、全体に行き渡らせるのにどうしたらいいか悩んでいる。
- ・ぼうさい探検隊のマップを作る前にマイタイムラインのレクチャーをしてからマップ作成を行ったところ、子どもたちからは災害が発生した際に自分達が何をしなければならないかをはっきりと実体験として行動できる意識付けが出来たという意見があった。マイタイムラインは大人目線で周知されているが、子どもたちが見て考える機会が少ないのではと感じておりマップコンクールと併せて推進していければと思う。

(廣瀬委員長より)

- ・本日の資料にある逃げキッドのチラシを先日の全国会長懇談会でも案内しており、ぼうさい探検隊と連携していただくよう依頼した。
- ・実態調査でのぼうさい探検隊の認知度 28.8%には愕然としている。全国の会長・役員は三冠王の項目に入っているのが推進していると思うが、本来の趣旨を伝え、すそ野を広げていくのがこの委員会メンバーだと思っているので、地道に熱をもって伝えられるかが重要であり引き続きお願いしたい。

(三浦副委員長より)

- ・定期的な避難訓練につき好事例あれば発表頂きたい。

(主な意見)

- ・4月に組織委員会、企画環境委員会、CSR委員会合同で事業継続力強化計画認定取得を目的としたセミナー開催を予定しているが、実態調査の結果からもBCPの認知度が低く、まずはそこから周知していかなければならないと感じている。
- ・BCPを作成するだけでなく、毎年毎年見直しをしていかなければならない(BCMの重要性)ので、その一環として避難訓練を位置付けていく必要があると思う。
- ・実際に避難訓練をしてみると気付きが出てくるので、まずは皆さんが実施すれば、その気づきをお客さまにも広められると思う。

4. 防災・減災の具体的な取組み(ハザードマップ活用討議)

ハザードマップ活用の取組みについて意見を求めた。

(主な意見)

- ・4/8付の保険毎日新聞に主催 損保協会 北陸支部・四国支部、共催 石川県代協・香川県代協で「ハザードマップの活用を学び、水害から家族を守る」オンラインセミナーが開催された記事が載っていたが、実際にこのセミナーに参加してみたところ座談会形式で金沢市と高松市のハザードマップを比べ、代理店などに対し地図の活用の仕方や災害リスクを啓発しており、参考になった。
- ・ハザードマップについては多くの会員が知っていると思うが、実際にそれを活用できているかという点、まだまだであり、いかにその重要性を伝えていくかを皆さんと考えていきたい。
- ・官公庁と連携すると情報も伝わりやすいので、支部単位で改めて推進していきたい。
- ・保険会社が提供しているツールを火災保険の契約の際に提示しているが、あらためて自治体のハザードマップを提供することはできていない。

(廣瀬委員長より)

- ・ハザードマップ、マイタイムライン、定期的な防災訓練の情宣・普及が諮問事項となる予定だが、皆さんの事務所でも避難訓練ができているところは少ないのでは、と感じている。この委員会ではどうやって、このことを会員に伝えていくかを検討していかなければならない。例えば、都道府県代協の行事計画にセミナー開催を入れ込んで周知していただきたい。

5. 一年間の振り返り

各委員が一年間振り返りを行った。

(植村委員)

- ・宮城県代協や鹿児島県代協ではメディアを活用してCSR活動を積極的に推進しているのので、会員にもしっかり周知していかなければならないと感じている。地域における代理店の立ち位置も大きく変わってきているのでCSR活動が会員の本業に活かせるものにしていきたいと感じさせられる機会が沢山あった。

(三浦委員)

- ・コロナ禍で各県のCSR委員長から、なぜこの取組をしなればならないのかという意見が委員会で出てきており苦戦した一年だった。特にアクティブな活動が多い中で、ZOOMを使ってどのように会員一人一人へ認知していただき活動を進めるかが課題であったが、その中でも工夫を凝らして取り組んでこれた事に感謝申しあげる。また、九州北ブロック4県すべてがぼうさい探検隊の目標を達成できたことは皆さんの努力の賜物だと思っている。今後、防災意識が高くなっていく中で我々保険代理業がどうやって生き抜いていくかにもこの課題は紐づいていくと思っているし、本業と繋げながらCSR活動をする中で若い人を巻き込みながら育てていくことができたらと感じている。

(平岡委員)

- ・この2年間皆様と会うことがないまま終わるとは思っていなかった。今年に関しては四国全県がぼうさい探検隊の目標を達成できたので、良かったと思うが、四国のメンバーともWEB上での会議となってしまう寂

しい限りであった。

(青木委員)

・CSRは奥が深く広島県の場合そういった土壌がまだできておらず、点にも線にもなっていないので、そこを面にして行くことは非常に大変だと実感した。企業がCSRでアイデンティティを求められている中で、人間性のような本質を求められていると思うので、単なる数値だけでなく人間性を表していくことが重要だと気づき勉強になった。

(山田副委員長)

・4年間CSR委員会に携わってきたが、3年目からはコロナの影響で皆さんに会うことができず、活動にも制限が掛かる中で、どうやっていくかを県代協や委員会新しいやり方を考えた結果ぼうさい探検隊の目標達成に繋がったと思う。状況が変わっていく中でも継続して取り組んでいくことが大事だと感じた。

(西川委員)

・4年前にCSR委員会に入った時の目標は、自社のためと自分のために学ぶことだった。そして、ぼうさい探検隊にはまり、サイバーセキュリティにはまり、防災士の資格を取ったことにより多くの仲間や防災に携わっている専門の方からインパクトのある情報を得ることができた。今はBCPにはまっているが、独りよがりブロック、県代協で伝達をしたつもりだったが、結果が伴わず心が折れてしまった。反省するところは多くあるが、「あなたのおかげで保険だけでなく色々教えてもらった」「付き合ってた良かった」という言葉をお客さまや大切な人から言われたという明確な目標が出来た。

(松田委員)

・初の委員会で何も分からず自分なりに勉強はしたものの、皆さんとのコミュニケーションも取れず役に立てなかったのではないかと感じている。最近地震も多く発生しているので、こういった時こそ防災・減災の取り組みをお客さまに伝えるのが我々の役目なのではないだろうか。今回CSRに関わったことで思い入れも出来たし、これからもつながりを作っていこうと思っているし、日々の営業活動にも活かしていきたい。

(宮下委員)

・これまで会計をメインに行っていてCSR活動は掃除をしたりする社会貢献の事だと思っていたが、実際は自社を守り、会員を守り、お客さまを守るために活動する大切な委員会だったのだと気づいた。

(三浦副委員長)

・4年間貴重な体験をさせて頂いた。後半の2年間はコロナの影響で大変だったが、その中でもオンラインが普及したことで全国各地のセミナーに参加出来たりして勉強になった。コロナが落ち着いてもこの流れは変わらないと思うので、それを踏まえた活動を続けていきたいと思う。ぼうさい探検隊、防災・減災の取り組み、子ども110番の取り組み等は繋がっているものなので今後も意識して活動していきたい。

・最後に、先般の国交省セミナー講師から、損害保険の仕事はそれ自体がCSR・社会貢献であり、この仕事をやっていること自体が公共的で世の中のためになることなので尊敬している、と言われた。この委員会はずっと重要な委員会であることを再認識した。

(丹沢委員)

・企画環境委員、CSR委員と携わってきたが次は県の役員となる予定であるので皆さんと会える日を楽しみにしている。

(岩崎委員)

・右も左も分からない状態でこの委員会に参加して、皆さんの意見を聞いてきたが、ぼうさい探検隊の目標を達成できなかった等足を引っ張ってきってしまったが、お客さまのためのCSRという事で皆さん頑張っていて一緒に活動させていただくことができた。これまでの皆さんの意見や知恵を今後に活かしていきたい。

(桐島委員)

・活動として目新しいことができなかったという反省点がある。会員実態調査の結果でぼうさい探検隊や避難訓練の認知度が低かったが、この2年間でZOOM等が活用されるようになっており、次年度の諮問事項

にもある通り全国の委員向けミーティングを行うことで広く取組みが浸透させていけるのではと思った。

(沓澤委員)

・CSR を担当して自分の為にもなったと感じている。また、他の委員会ではできなかったような様々な取り組みを仕掛けることも出来たと思っている。会員実態調査でぼうさい探検隊の認知度が低いという事を知って伝達の仕方が上手くできなかったのではないかと反省している。

(小笠原委員)

・岩手県のぼうさい探検隊が常に目標達成できていることが自慢である。ただ、他県が達成できていないのは力不足であったと感じている。街頭キャンペーンにおいては、会員のみならず保険会社社員の協力を得て実施できたことも良かったと思っている。

(池田委員)

・2015年からCSRを担当しているが、とにかく伝えないといけない役目だと思ってやってきた。自分一人では何もできない、多くのメンバーへ何度も繰り返し話すことで、この人はこのことをやろうとしているのだ、と伝わるのだと思う。ブロックでは、ぼうさい探検隊の池田だとも思われていると思う。かつて、懇親会までが会議だ、と言われたことがあるが、やはり、そういう場でコミュニティ能力を磨くことも大事だと思う。最後に会えることができ良かった。

(廣瀬委員長)

・2年間お世話になった。リアルで皆さんと話をしたかったのが本音である。コンベンション等で会う機会はあると思うので、その際は声掛けいただきたい。2014年からCSR委員として参加させていただいていましたが、当時は寄附金をどこに贈呈するかとかを選定していた。時代とともに取組み内容が変わってきて、今は地震や水害と自然災害から守るという重要なことを推進しているのだ、と日本代協の金子会長からも、言葉をいただいており、全国で皆さんが活動していることは非常に大事なことだと思う。諸先輩方が沢山いる中で委員長を引き受けさせていただき、副委員長や委員の皆さんの協力でここまでやってこれた事感謝申し上げます。

・その他・閉会

1. 情報共有

事務局(金澤部長)より下記情報共有があった。

・火災保険水災料率に関する有識者懇談会が金融庁で開催され、水災料率の細分化導入が話し合われた。3/31に報告書がリリースされている。その中で保険会社に期待される取り組みが記載されていて、お客さまにどのような情報提供をするかという事なので、つまりは代理店さんに期待される取り組みである。その中で、自然災害に関する消費者のリスク認識の向上として「顧客が自身を取り巻く水災リスクを認識できるよう洪水ハザードマップに示される外水氾濫リスクの正しい理解、外水氾濫以外のリスク(内水氾濫リスク)への認識を促すことができるよう、一層の工夫を行っていくことが求められる。また、中小企業などを含む顧客に対する防災・減災に向けた支援についても、引き続き積極的に取り組む事が期待される」また、火災保険販売時等における積極的な水災補償の付帯勧奨として「特に、洪水ハザードマップ上の浸水深が浅いなどリスク認識が持ちにくい顧客や、契約見直しの機会が少ない長期契約の顧客に対しては、損害保険会社側による積極的な水災リスク情報の提供等を通じて水災補償の付帯率向上に向けた取り組みを行っていくことが期待される」とされている。まさに今皆さんが取組んでいることが期待されていくのである。地道な活動が大事であり、勉強だけでなくお客さまと一緒に見てみる事を繰り返していくことを浸透させていくことも重要である。

(野元専務より)

・今期の委員の皆さんにおいては、それぞれの役割を發揮いただき感謝申し上げます。お陰様でハザードマップは日本代協が10年前から重要性を主張してきたのだが、保険会社は、ハザードマップを明らかにすると付帯しなくてもいい人は付帯なくなってしまうことから及び腰であった。しかし世の中は我々が元々言っていた方向に動いているので地道にやってきてよかったと感じており、皆様のおかげである。また、特定修理

業者対策についても保険会社は不正請求のチェックができないと及び腰だったが、我々は現場の問題として主張してきた結果、抜本的に変わり昨年からは保険会社も本気になって排除に取り組んでいる。少し時間が掛かったかもしれないが、想いを持って取り組んできたことが業界を変えることに繋がってきたので、皆さまの取り組みには感謝したい。

・ぼうさい探検隊については、昨年度 4 割以上が代協経由での申込みであり、コロナ禍の厳しい環境でありながら地道に取り組んでいただいた皆様のおかげである。我々代協は、それぞれの現場で地道に積み上げていくことしか基本的にはないが、業界の中でもそれが生きることは非常に大きな経験値だと思っている。今後も、出来る事を積み重ねていくことが地域の代理店の大きなポイントになるのでお互い連携し合っ取り組んでいただきたい。

2. 本日の到達点の確認、次回以降日程確認

事務局より、本日の決定事項を再度確認した。

3. 横山副会長所感

・長時間お疲れさまでした。本日の皆さんの話を聞いていると多くの方が委員会を離れられ解散式のような気がした。現メンバーでの委員会は本日が最後ではあるが、委員会運営にご尽力いただき感謝申し上げます。今後とも代協のCSR活動ありのままを各代協で推進していただきたい。

・この一年間コロナの感染拡大は、2 年前をはるかに上回る中で実態を伴う活動を求められるCSR委員会のミッションをそれぞれの創意工夫で本当に一所懸命に取り組んでいただいたと感じている。先ほどの振り返りを聞いている中でもそのように感じた次第であり改めて感謝申し上げます。

・季節は巡り、今年もぼうさい探検隊マップコンクールの募集が始まっているが、防災・減災の意識を若年層が持ってもらうことが大事であり、教育現場でも防災・減災の必要性を言われている中で、保険代理店、募集人の使命はここにあるのだ、と常々感じている。

・地方創生、安心して暮らせるまちづくり、環境保全、一昨年あたりからにわかになされているSDGs やカーボンニュートラル、脱炭素に繋がる環境保全の意識の高まりがある。社会の要請に応えるのが代理店であると、改めて認識している。

・正会員実態調査の結果について、やはりCSR活動に関連したBCPや防災訓練、ぼうさい探検隊、事業継続力強化計画等の認知度が低いこと、BCPセミナーは今年の2月で47都道府県が実施しているが、本当に実効性のある活動になっているのが今後の課題だと認識している。

・CSRは代理店を社会貢献に導く水先案内人でありたい、と思っており地球環境保護のために代理店に出来る事を考えようと集まったことがこの委員会の発端であった。マクロでは地域環境保護、そしてミクロで地域社会貢献の推進に取り組むための施策を検討し、実施しを繰り返しながらこの活動をものにして行くべきだと考えている。

・ぼうさい探検隊を主催する損保協会の船曳会長は、先に発表した協会長ステートメントで今年度の主要課題の取り組みを打ち出していた。一番目に気候変動に関連する取り組み、二番目に非対面・非接触・ペーパーレスの推進、三番目にリスクへの備えの一段の強化、そして高校生を中心とした損害保険リテラシー向上など、特に中小企業向けのリスクへの備えについては中小企業庁と並びに当協会とも連携を進めると明言している。我々の営業にもつながるこの活動について、アンテナを高く張り、視野を広げ、新たな取り組みにチャレンジしていくことが求められると感じている。

・本日の会議で得られた情報を各代協にしっかり伝えていただき、上がった会員の声をフィードバックしていただきたい。

・最後になるが、廣瀬委員長にはリアルで集合することがない中で、情報を発信し委員会を牽引していただいたことに感謝申し上げる。また、今回でCSR委員会を離れられる委員の方、2年間お疲れさまでした。代協においてCSR委員会は非常に大切な役割を担っているので、代協に戻られたら会員とともにCSR活動を推進していただきたい。

以上

次回開催日 2022年6月22日(水) 13:30 ~ 17:00